

【Word ファイル設定】

- ①サイズは「A4」、印刷の向きは「縦」、文字列の方向は「横書き」とする。
- ② 余白は適宜設定すること。なお、テンプレートの余白設定は「上：30 mm・下：25 mm・左右：25 mm・とじしろ：0」となっている。
- ③ 1 ページの文字数、行数は「40 字×40 行」とし、1 ページの合計字数は「1,600 字」とする。
- ④ 文字フォントは「MS 明朝」、サイズは「10.5 ポイント」とする。
- ⑤ **本論全体の文字数及び小問ごとの文字数を明記する。**

【研究報告書の構成】

①本論、②出典・参考文献でページを分けて明確に区別し、①本論にはページ番号を付けること。
なお、②出典・参考文献を記載する際には、出典・参考文献に関する注意事項 PDF を厳守すること。特に、引用箇所は、「」（引用符カッコ）でくくり、出典を明確（頁数も記載）にするといった引用ルールを無視した場合、無断引用（剽窃行為）となり『不正行為』として処罰対象となるので注意すること。

- ・ **「本論」及び出典、参考文献が記載されたファイルのみ**を提出すること。
- ・ **目次は作成しない**こと。
- ・ **本論→出典及び参考文献の順**にページを分けること。
出典及び参考文献は本論の最終ページの次ページ以降にのみすべて記載すること。
＜参考情報＞ ページ区切りの方法 ※外部サイト [word ファイルにおけるセクション分けの方法について](#)
- ・ データファイルは **WORD 形式（拡張子.doc 又は.docx）** で作成すること。
- ・ 本論データファイル中には「**補習生カード番号**」・「**氏名**」を記載しないこと。
- ・ **ページ番号は本論のみに付す**こと。（引用・参考文献セクションにはページ番号は不要）
- ・ **章、節の区分、段落付けは明確**にすること。
- ・ 本論における文字数には、「**図表等**」は含めない。
- ・ 引用箇所は「**」（引用符）** でくくり、出典元を明らか（ページ数も記載）にすること。
→注意：本論と同じページに出典及び参考文献を記載するのではなく、本論の後に記載する。
※**出典と参考文献は別のもので**す。
 - ・ **出典**→資料の原文をそのまま使用している
 - ・ **参考文献**→意見の記述に当たり、参考にした資料出典については使用順、参考文献の記載順は下記例示に従ってください。
- ・ 出典、参考文献の記載漏れがないように特に注意すること。
- ・ 参考文献、出典について記載のない場合においても、**巻末に「参考文献なし」、「出典なし」と記載**すること。
- ・ 参考文献や出典を明記しない場合、論文の盗用とみなされる場合がある。
- ・ 提出にあたっては、誤字等がないように十分確認すること。
- ・ 形式不備があった場合は、自動的に評価点から減点されるので注意すること。
- ・ 他人の論文を複写（丸写しやコピーアンドペースト等）するなどの**不正行為を行ったものは、相応のペナルティを科す**。

＜出典・参考文献に関する注意事項＞

- (1) 引用箇所は、「 」(引用符カッコ)でくくり、出典を明確(頁数も記載)にすること。また、ウェブサイトからの引用の場合は、そのアドレス(URL)とアクセスした日を記載する。
- ① 論文の最後に掲載する参考文献の一覧は、日本語の文献(著者氏名の五十音順)、欧文の文献(ファミリーネームのアルファベット順)の順に記載する。
- ② 日本語の場合は、単行本・雑誌名は『 』で、論文名は「 」でくくる。一方、欧文の場合は、単行本は書名を、論文の場合は雑誌名を、それぞれイタリック体で記載する。
- ③ 文献は次の順序で表記する。なお、発行年が同じものが複数存在する場合、発行年に a、b…をつける。

単行本	著者(编者)名、発行年、『書物名』、発行所。
論文	著者名、発行年、「論文名」『収録書物名(または雑誌名)』巻数・号数、掲載頁。

(参考文献の記載例) ※著者名、論文名、発行所等はすべて架空のものです。

【単行本の場合】

- (1) 中村花子(1998)『アメリカ管理会計の理論』経営図書出版。
 (2) 山下仁義監訳、斎藤 隆・西崎真一共訳(2008)『監査人の責任としての透明性』東京会計書籍。

【論文の場合】

- (1) 青木太郎(2009)「企業会計の利害調整機能—会社法との比較を中心に—」『会計ジャーナル』第66巻第1号、32-47頁。
 (2) 加藤 登(2015a)「企業会計と自治体会計の相違」『経理実務』第68号、15-26頁。
 (3) -----(2015b)「自治体監査の特徴」『自治体会計研究』第25巻第3号、35-38頁。

【欧文の場合】

- (1) Abcde, Fghij K. (19xx), *Lmn Opqrs-T Study in the Uvwxyz*, Zyx Smith.
 (2) Edcba, Jihgf T., S.Rqpo Lmn, Zyxwvu A. Bcde (19xx), Auditors and the XXX of YYY, *The Journal of Zzzz* Vol. 23, No. 4, pp. 55-66.
 (3) Xyz Institute of Certified Public Accountants (XICPA), The XXX Committee on Financial Reporting (19xx), *Improving Business XXX Reporting : Information Needs of Vwxyz Investors*. Xyz Institute of Certified Public Accountants (※川本健夫・浜本海彦共訳(200x)『〇〇の改善報告』太陽書店)。

- ④ 引用・注記の表示は著者名、発表年と頁を()で囲んで入れる。

(引用する場合の記載例) ※著者名等はすべて架空のものです。

(1) 「 」(カッコ)で直接引用する場合

…であるが、「法22条4項は、企業会計を意味する」(長嶋(2016)、199頁)ことになる。

(2) 要約する場合

長嶋(2016)によると、……という解釈になる(193-195頁)。

(3) 脚注で引用や補足する場合

税法は、情報提供に重きをおく企業会計とは、ますます乖離するであろう⁽⁸⁾。

注(8) 鈴木(雅)(2015)、202頁参照。

※鈴木雅彦と鈴木茂雄の2名を参考文献に挙げている場合は、(雅)か(茂)で区別する。

- (2) 引用や注記をする場合には、必ず出典(出所)を明らかにする。また、参考文献の記載漏れがないよう特に注意すること。
- (3) 参考文献について記載のない場合においても、巻末に「参考文献なし」と記載すること。
- (4) 参考文献を明記しない場合、論文の盗用とみなされる場合があるので注意すること。
- (5) ウィキペディアや専門学校のテキストは参考文献として認めない。